

2. 留学生相談部門

留学生相談部門の活動対象は、1) 一橋大学に在籍する留学生、2) 留学生の支援や交流を希望する日本人学生、3) 留学を希望する日本人学生、及び 4) 留学生の問題を解決するために連携する教職員や地域社会の人々である。2006 年度の留学生相談部門の業務は、留学生相談部門教員（横田雅弘）と留学生センター兼務で各研究科に所属する留学生専門教育教員（商学研究科：太田浩、経済学研究科：井村倫子、法学研究科：柘植道子、社会学研究科：河野理恵）が担当した。

留学生相談部門が提供する主に外国人留学生を対象とした教育サービスは、1) 学生の相談に応じ、問題解決を図る「相談活動」と、2) 学生の適応上の問題を未然に防いだり、異なる文化への認識を高めていく「予防・開発的活動」の二つに分けられる。相談活動の中心は、アドバイジングとカウンセリングであり、治療的な面接から情報提供まで幅広い活動が含まれる。予防・開発的活動には、a) オリエンテーション・プログラムやガイドブックの出版、各種チューター制度の運営など留学生の異文化不適應を予防する活動、b) 見学旅行、授業など、留学生の日本社会・文化あるいは大学制度への理解を促す活動、c) コミュニティによる生活支援を促進する活動、d) 学生国際交流誌『Bridges』の編集、また間接的なものではあるが、e) 教職員に留学生の現状を伝え、大学の受け入れシステムを改善する活動などがある。この他、日本人学生を主な対象とした活動には、留学フェアの開催や TOEFL 説明会、ITP・TOEFL（学内で実施する TOEFL の模擬試験）、ならびに海外留学や留学生理解に関する授業の提供などがある。

1 相談活動

1) 相談室の時期、時間及び担当者

夏学期に対応した開室日は 3 月 27 日（月）～8 月 4 日（金）であり、冬学期に対応した開室日は 9 月 25 日（月）～2 月 9 日（金）であった。これらの期間の月曜日～金曜日の午前 10 時～午後 1 時、午後 2 時～午後 5 時には表 1 の担当表に基づいて留学生相談室を開室した。昨年度に引き続き、今年度も長期休暇中も相談室を開室したが、表 1 に基づく担当ではなく、夏期、春期休業のそれぞれにシフトを作成して開室した。夏期休業期間の 8 月 7 日（月）～9 月 22 日（金）までの開室日 34 日間は、横田（17 日）、河野（4 日）、井村（5 日）、柘植（4 日）、太田（4 日）が担当した。春期休業期間の 2007 年 2 月 13 日（火）～3 月 23 日（金）の開室日 28 日間は、午前 10 時～午後 1 時までの開室とし、横田（14 日）、太田（3 日）、井村（3 日）、河野（5 日）、柘植（3 日）が担当した。

表 1 相談室担当者の一覧

曜日	10 時～13 時、14 時～17 時
月	横田雅弘
火	太田浩
水	井村倫子
木	河野理恵
金	柘植道子

2) 来談状況の分類

① 相談領域

表 2 は 2006 年度の来談状況の分類である。一年間で延べ 1,436 件（昨年度 1,606 件）の相談を受け付け、延べ 1,479 名（昨年度 1,629 名）の来談者があつた。来談者数が相談件数よりも多いのは、複数で来室したものを 1 件とカウントしているためである。

今年度相談件数が一番多かった領域は、昨年同様「チューター」（204 件、14.2%）である。これは、留学生と日本人学生によるチューター申込みの登録である。6 番目に多い「チューター・オリエンテーション」（99 件、6.9%）を含めて、チューター制度に関するものが全体の 21.1%となっている。これは厳密には相談とは言えないが、予防的・開発的な施策の一環として、また日本人学生の教育的な面ももつ活動である。チューター・オリエンテーションとは、チューター制度の有効性を高め、日本人学生と留学生のトラブルを防止するために行っているものであり、チューター候補者と留学生の両者を相談室に呼んで、『日本人学生の海外留学と外国人留学生との交流のための海外留学・留学生交流ハンドブック』をテキストとし、チュートリアル内容の確認、チュートリアル実施にあたっての注意事項、問題が起きた場合の対処などについて指導している。なお、留学生センターの日本語研修留学生につくチューターについては、日本語教育の訓練を受けている、もしくは日本語教育歴のある学生にチューターを依頼した。

経済に関する相談は次のように下位分類されている。「経済」（8 件、昨年度 3 件）、授業料の減免申請のためのサインを求める「減免」（125 件、昨年度 140 件）、「奨学金」（60 件、昨年度 52 件）、そして奨学金申請のための「推薦書」（53 件、昨年度 37 件）である。奨学金に関するものでも、推薦書を実際に書いた場合には「推薦書」として分類している。アルバイトに関するものでは、「アルバイト」（12 件、昨年度 8 件）の相談と資格外活動許可申請のための「副申書」執筆（118 件、昨年度 99 件）が含まれる。以上、経済に関係する相談件数を合計すると、376 件（昨年度 339 件）となる。なお、「住居」（108 件、昨年度 107 件）と分類されている内容にも、経済的な理由で訪れた者が含まれる。経済に関する相談は、相談内容については生活設計の建て直し、アルバイトや奨学金紹介などになる

2. 留学生相談部門

が、解決は難しいものが多い。心理的に追いつめられていることが多いので、話を聞いていくことでそれでも何とかやっていこうという気持ちをもってもらうことが大切である。話の内容には、どうして私は減免や奨学金がもらえないのかという制度や審査に対する不満が多くの場合にあり、まずはそれを聞いていくことになるが、なかなか難しいカウンセリングである。中には、もともと入学時から、しっかりとした資金計画がなかったのではないと思われる事例もある。「その他」を除いてチューターの次に多かったのは「減免」や「副申書」であり、経済に関する相談が多いことが明らかである。

学内の国際交流・異文化交流誌である『ブリッジス (Bridges)』の編集会議や指示に関して来談した件数 (24 件、昨年度 38 件) は、相談というような内容ではないものも多いが、原稿を書く留学生が多く、日本語で文章を書いたりインタビューしたりする勉強の一部になっている。2006 年度も 3 月に発行した。

健康の問題には、身体的な問題 (11 件、昨年度 13 件) と心理的な問題 (25 件、昨年度 23 件) がある。心理的な問題については、他の項目と比べると複数回来談するケースが多い。

教育 (内容) すなわち授業等の内容に関するものがある。昨年度は 96 件、今年度は 82 件となった。「留学生理解と国際教育交流」、「海外留学と国際教育交流」などの授業に関するものや、留学生担当教員が学部で開講している授業などに関するものである。日本人学生からの留学相談は、昨年度 91 件、今年度は 69 件となった。

「行事申込」(9 件、昨年度 14 件) とは、毎年 2 回開催している日本探訪旅行に関する質問、旅行のオリエンテーションに来られなかった学生の個別オリエンテーションなどである。「地域」(10 件、昨年度 26 件) とは、地域ボランティアの市民の方からの相談や打ち合わせが含まれる。学生からのホストファミリーに関する質問や紹介もここに入る。

表 2 2006 年度月別来談者状況

	06 年										07 年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
言語	0	0	0	0	1	0	4	0	2	0	0	0	7	
住居	4	9	27	15	3	2	13	10	11	9	3	2	108	
生活	1	1	3	1	1	0	2	2	1	1	1	0	14	
進路	3	7	4	11	3	2	4	1	2	7	2	3	49	
履修	16	7	1	4	0	2	10	0	0	0	0	0	40	
就職	0	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	6	
教育	9	12	15	20	3	0	8	1	4	8	1	1	82	
オリエンテーション	10	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	3	20	
チューター	46	36	11	5	8	6	27	21	20	13	4	7	204	
チューター・オリ	17	26	6	8	2	0	23	8	10	2	0	0	99	
経済	0	0	2	0	0	2	2	0	0	0	1	1	8	
アルバイト	3	1	0	3	1	0	2	1	0	0	0	1	12	
副申書	13	19	21	7	7	7	8	9	5	4	5	13	118	
減免	49	0	0	6	2	5	60	0	0	0	0	3	125	
奨学金	12	14	2	0	1	8	6	5	7	0	2	3	60	
推薦書	4	4	3	3	0	0	2	9	6	16	2	4	53	
人間関係	2	1	3	0	0	0	3	2	0	0	0	0	11	
健・身体	1	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1	4	11	
健・心理	0	2	3	4	1	0	4	2	4	3	2	0	25	
行事申込	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9	
在留資格	5	1	3	3	2	0	0	3	6	2	1	11	37	
留学相談	4	9	3	3	0	2	7	18	13	6	3	1	69	
ブリッジズ	0	1	2	4	0	2	5	4	2	1	2	1	24	
地域	1	3	2	0	2	0	0	1	0	1	0	0	10	
その他	15	25	11	22	11	11	24	14	17	17	6	6	179	
会議	2	14	4	4	3	1	3	10	5	3	3	4	56	
計	217	190	130	126	52	53	222	127	118	94	39	68	1,436	

② 来談者の内訳（表 3）

表 3 来談者の内訳

種 類		人 数
留学生	学部生	413
	研究生	86
	修士課程	164
	博士課程	61
	センター生	19
	日本語研修生	15
	交流学生	82
	聴講生	2
	学外	32
日本人学生	学部生	253
	修士課程	62
	博士課程	47
	聴講生	2
教員		47
職員		61
学外		105
不明		11
総 計		1,479

2. 留学生相談部門

全来談者のうち、留学生はのべ 874 人（59%、昨年度 939 人）、日本人学生はのべ 364 人（24.6%、昨年度 397 人）、教員はのべ 47 人（3.2%、昨年度 71 人）、職員はのべ 61 人（4.1%、昨年度 118 人）、学外者（学生を除く）はのべ 105 人（7.1%、昨年度 104 人）であった。先の留学生の数に含めたが、学外からの留学生・就学生はのべ 32 人（昨年度 35 人）であった。

留学生の来談者のうち、413 人（47.3%）すなわち半数弱が学部生である。学生総数では学部留学生は大学院留学生の約 4 分の 1 なので、この比率はかなり高い。大学院生は、すでに日本で学部時代を過ごしている人も多いこと、学部の 1～2 年生は指導教員がいないので授業料免除申請や奨学金などについての推薦を求めて来室すること、学部留学生はチューター制度を活用する人が多いこと、日本人学生との交流やブリッジスの編集などについて学部留学生の方が積極的であることなどがその理由であろう。

修士課程の留学生の来談はのべ 164 人と留学生全体の 18.8%を占める。大学院重点化が完了して修士課程の学生数が大きく増加し、そのために奨学金の受給が難しくなって経済的な問題を抱える学生が少なくない。経済的に厳しい中で、単位の修得、修士論文の執筆、卒業後の進路と数多くの課題をこなす必要がある。心身の健康に関する来談が一番多いのが修士課程の学生である。

研究生の来談者数はのべ 86 人で、昨年度の 127 人から減少したが、一昨年と同様の数字である。留学生来談者に占める割合は 9.8%である。修士課程や博士課程の入学準備期である研究生の訴える問題は深刻なものが多い。

日本人学生の来談者の 69.5%が学部生で、その比率は留学生の学部生の比率に比べても更に高いが、チューターのオリエンテーションを受けに来た学生の多くが学部生であること、教育内容や留学相談について来室した学生も学部生が多いことが主な要因である。それ以外にも、留学相談やブリッジスの編集に積極的であることから学部生の割合が高くなっている。

なお、相談室には本学の留学生、日本人学生の他に、教職員（108 人、来談者のべ人数の 7.3%：教員 47 人、昨年度 71 人、職員 61 人、昨年度 118 人）からの相談や教職員とともに問題に対処するための相談がある。理由は定かではないが、いずれも減少している。また、学外（105 人、昨年度 104 人、総数の 7.1%）からの相談は、地域で留学生を支援しているボランティアが最も多いが、他にも行政機関の担当者、一橋大学受験希望者などからの相談がある。

③ 来談の場所・方法（表 4）

表 4 場所と方法

相談室	1,139
研究室	2
メール	190
電話	65
その他	3

ほとんどが相談室に来談しての相談であるが、メールでの相談も 190 件ある。メールでの相談は、これを積極的に行う相談員とそうでない相談員がおり、現状各相談員に任されている。

2 予防・開発的活動

1) オリエンテーション・プログラム

4 月及び 10 月入学の大学院生、学部生、研究生、交流学生、日本語研修生（センター学生）、日本語日本文化研修生を対象にオリエンテーションを行った。なお、オリエンテーションに欠席した留学生については留学生相談室で個別にオリエンテーションを実施した。例として 2006 年度夏学期の学部学生と研究生のオリエンテーション・スケジュール（日本語）を下記に示す（表 5、表 6）。研究生のオリエンテーションは同時に英語でも実施した他、別途交流学生用の英語によるオリエンテーションとセンター学生用の英語によるオリエンテーションも実施した。

2. 留学生相談部門

表5 学部留学生オリエンテーション (2006 年度夏学期)

★マーク=必ず出席すること！

	9:00	4日(火)	5日(水)	6日(木)	7日(金)	10日(月)	19日(水)	26日(水)	28日(金)	9:00							
	10:00	★入学式 at 兼松講堂 10:00-12:00	★入学式 at 兼松講堂 10:00-12:00	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	◇ 28日(金)まで 提出場所 ↓ 教務課	◇ 28日(金)まで 提出場所 ↓ 教務課	10:00							
	11:00									11:00	11:00	11:00	11:00				
	12:00									12:00	12:00	12:00	12:00				
	1:00	★学部留学生 オリエンテーション at 国際研究館 4階 大教室 1:00-3:00	★新入生ガイダンス at 兼松講堂 1:00-4:30	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★健康診断 at 東1号館 1101室 9:00-12:00 (集合時間は クラスごとに 違うので、各 自チェックの こと)	★IT環境利用 説明会 at 兼松講堂 1:00-2:30	★IT環境利用 説明会 at 兼松講堂 1:00-2:30	1:00							
	2:00									2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	3:00									3:00	3:00	3:00	3:00	3:00	3:00	3:00	3:00
	4:00	★キャンパスツアー at 国際研究館 1階 ラウンジ 3:15-4:15		★学部別 オリエンテーション 場所は下記参照 3:10-	★学部別 オリエンテーション 場所は下記参照 3:10-	★学部別 オリエンテーション 場所は下記参照 3:10-	★学部別 オリエンテーション 場所は下記参照 3:10-	先登学生による 履修アドバイザー at 国際研究館 1階 センター会議室 3:00-5:00	先登学生による 履修アドバイザー at 国際研究館 1階 センター会議室 3:00-5:00	4:00							
	5:00									5:00	5:00	5:00	5:00	5:00	5:00	5:00	5:00
	6:00									6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00

	4日(火)	5日(水)	6日(木)	7日(金)	10日(月)	12日(水)	17日(月)	28日(金)
9:00								
10:00								
11:00								
12:00								
1:00								
2:00								
3:00								
4:00								
5:00								
6:00								

Welcome Party by ASSIST at 東プラザ2F 6:00～

2) 異文化交流誌『Bridges』

『Bridges』22号(編集長：横田、副編集長：柘植)を編集し、2007年3月20日に発行した。今号は、本文のレイアウトを学生編集長の黄恂恂さん(現在商学部4年)が担当してイラストレーターやフォトショップなどの機能を用い、大きく変更した。表紙も、一橋大学美術部に黄恂恂さんが加わって担当し、斬新なものとなった。本号では、この雑誌の基本的な位置づけを新入生のために国際交流のさまざまな関わり方を紹介することとし、特集を「新入生のための国際交流パスポート」と題し、国際交流サークル、国際宿舎に住む経験、地域の留学生支援、海外留学制度などを紹介した。さらに、TOEFL-iBTテストに関する記事も前号に引き続いて掲載した。

3) 学内留学フェア

日本人留学希望者へのガイダンス及び協定校紹介を目的とした留学フェアを4月26日(水)に学内において実施した。交流協定校の紹介は交流学生及び帰国留学生が担当した。なお、全体会においては学外から、カリフォルニア大学東京スタディセンター副所長の高橋香世氏、HEC 経営大学院日本代表の足立純子氏、ブリティッシュ・カウンシル教育プロモーション・オフィサーのエマ・パーカー氏、アイルランド政府商務庁商務官補佐のバリー・クロニン氏をゲスト講師として招き、それぞれの大学、国、文化などについてお話しいただいた。また帰国留学生の代表として、ドイツのハイデルベルグ大学に行かれた新発田頼子さん(社会学部)が留学から得た経験についてのスピーチを行った。

分科会においては各ブースに分かれての説明会が行われ、学生交流協定校12校のほか、ブリティッシュ・カウンシルとアイルランド政府商務庁が各国の大学の特色などの説明に当たり、河野が中国留学相談ブースを設けた。

4) 国際資料室のチューター

個別チューターとは別に、全ての留学生が気軽に日本語のチェックや講義内容の疑問点などを相談できるように、国際研究館1階の国際資料室にチューターが常駐した。チューターは大学院生に依頼し、月曜日から金曜日の10時から1時、2時から5時まで、留学生や日本人学生からの相談を受け付けた。担当者の一覧を表7に示す。一橋大学の常駐のチューター・システムに関する報告と分析は紀要第7号に掲載されているので、そちらをご参照願いたい。

表 7 国際資料室担当者一覧

曜 日	氏名・所属
月	山本聡子（言語学研究科博士課程）
火	チョン ホソン（経済学研究科博士課程）
水	斎藤真琴（社会学研究科博士課程）
木	山本章子（法学研究科博士課程）
金	福地宏之（商学研究科博士課程）

5) 留学生日本探訪旅行

昨年度までは 2 泊 3 日で 20 人の学生を相談部門の教員 1 人が引率する形式の日本探訪旅行を行っていたが、今年度からは経費節減の必要もあり、年 2 回、1 泊 2 日のバス旅行の形式となり、教員のほか留学生課から職員 1 名、他部署から職員 1 名が引率に加わった。2006 年 11 月 18 日～19 日には日光（引率者：河野、本江、青木）、2007 年 2 月 21 日～22 日には静岡県清水（引率者：横田、宮崎、辻井）にて実施した。

6) TOEFL セミナー

日本での TOEFL 実施機関である CIEE（国際教育交換協議会）を招いて、TOEFL セミナーを 4 月 26 日に実施した。主として、新 TOEFL である TOEFL-iBT や TOEFL-ITP の説明をしてもらった。54 名の参加があった。

7) TOEFL-ITP

本学生協の協力の下、TOEFL-ITP を 2 回実施した。5 月 17 日は 39 名、11 月 29 日は 25 名が受験した。

8) 小平キャンパス国際学生宿舎における活動（留学生指導主事、フロアリーダー会）

小平キャンパスの国際学生宿舎では、フロアリーダー会の宿舎チューターと留学生指導主事がリエゾンとなって、以下のとおり留学生居住者間の交流イベントを企画、実施した。

- ガイダンス&ウェルカムパーティ（2006/4/15 と 10/14）
今年からは、ウェルカムパーティに先だって、宿舎チューターをファシリテーターとして「留学生居住者のためのガイダンス」（参加必須）も実施されるようになった。新規入居者を含むすべての留学生入居者を対象とし、日英 2 カ国語で行った。
- 華道・茶道クラブお試し（2006/4/22）（協力：国際交流さくら会）
- Movie Night（2006/5/13 と 11/24）
- 立川防災館 防災ツアー（2006/5/13 と 12/2）
- ワールドカップパーティ（2006/6/9）

2. 留学生相談部門

- 夏キャンプ in 箱根 (2006/8/8～8/9)
- 秋空市フリーマーケット開催 (2006/10/14)
- ハロウィンパーティ (2006/10/14)
- クリスマス華道 (2006/12/16) (協力：国際交流さくら会)
- Year-end Party (2006/12/22)
- 新年落語会 (2007/1/13)

9) 短期海外研修 (モナッシュ大学)

「本学学生の国境をまたぐ能力育成プロジェクト」として、平成 17 年度「教育研究改革・改善プロジェクト経費」(通称：学長裁量経費)を受け、18 年度も短期海外研修を 2 月 24 日から 3 月 24 日まで、豪州メルボルンのモナッシュ大学にて実施した。実際の現地での研修、ホームステイ、研修旅行等は、モナッシュ大学の MCG (Monash College Group) によって運営された。実施にあたっては、広報、オリエンテーション、ロジスティック面で UTS 国際教育センターの協力を得た。また、今回は本研修を東京工業大学、大阪大学、東京学芸大学、東京医科歯科大学、東北大学の 5 大学と合同で実施した。6 大学全体では 46 名の参加者があり、本学からは 24 名の学生が参加した。現地では、英語の能力別に 3 クラスに分かれて、研修を受けた。本研修では、英語によるコミュニケーション能力の向上だけでなく、豪州の社会、政治経済、文化を理解すると共に、異文化体験を通じて、それを理解し、適応するための(異文化間コミュニケーション)スキルを学ぶことを目的とした。また、参加学生は滞在中に各自がテーマを持って、研究プロジェクトをまとめ上げ、最終日に発表を行った。

本研修は、3 回の研修説明会(11/1、11/15、11/22)を経て、参加学生を募り、研修前に 3 回のオリエンテーション(12/20、1/24、2/16)を実施し、学芸大学の学生(2 名)と医科歯科大学の学生(1 名)も加わった。オリエンテーションでは、異文化理解、危機管理、渡航手続き、現地での生活情報などを中心に取り扱った。研修中は、服部国際戦略本部企画調査役と五味留学生センター長が現地での実地調査(2/19～2/23)を行った。帰国後は研修のレビュー(4/9)を行い、その際、参加学生に対して、アンケート調査を行った。今後、当該アンケート調査の集約と分析を行い、服部国際戦略本部企画調査役および五味留学生センター長の実地調査レポートと共に本研修の報告書をまとめた。また、参加学生は別途、「短期海外研修報告書」を作成中で、8 月に発刊予定である。

10) くにたち地域国際交流ネットワークとの協力

国立地域の複数の国際交流ボランティア組織が実施している外国人のためのサポート活動(日本語講座、ホームステイ・プログラム、生活相談等)に協力した。これらの活動については、『Bridges』22 号の特集として取り上げたのでご参照願いたい。

11) 授業

相談部門にかかわる教員が担当した授業は以下の通りである。

① 日本語研修コース

科目名（担当者）	コマ数	対 象	授業内容	時期・時間数
異文化体験ゼミナール （横田）	2 コマ ／週	日本語 研修生	講義や体験学習、見学などを通して日本社会の理解を深め、あわせて日本文化への適応スキルを習得する。	4 月コース 10 月コース 各 60 時間

② 全学共通教育科目

科目名（担当者）	コマ数	対 象	授業内容	時期・時間数
まちづくり 2006 夏・冬 （林・横田）	1 コマ ／週	学部学生	「教育と思いやり」をキーワードに国立市の富士見台地区の再開発と国立のまちづくりを授業として実施した（特色 GP 関連授業）。	それぞれ 夏・冬学期開講 各 30 時間
留学生のための社会科学 ゼミナール I（井村）・II（河野）	1 コマ ／週	学部学生	I では、スタディースキル（ノートテキング、リサーチ方法、速読、レポート作成）を中心に大学生活で必要な基礎能力についての講義と演習を行った。 II では、I で学んだスタディースキルを駆使し、世界で起こった大事件について各国の報道の比較を行ったりして、あらゆる角度から事件をとらえる目を養った。	それぞれ 夏・冬学期開講 各 30 時間
留学生理解と国際教育交流 （河野・太田・井村・柘植）	1 コマ ／週	学部学生	日本の留学生事情と国際教育交流の政策、異文化適応について学んだ。	夏学期開講 30 時間
海外留学と国際教育交流 （太田・井村）	1 コマ ／週	学部学生	海外留学を希望する学生を対象にマクロな視点から留学を考えるとともに、自分自身の留学プランを検討し留学に伴うカルチャー・ショックと異文化適応について学んだ。	冬学期開講 30 時間
ジェンダーと心理学 （柘植）	1 コマ ／週	主に 学部学生	ジェンダーが心理学の諸理論でどのように捉えられているのか、どのような研究がなされているのかに焦点をあて、ジェンダーと切り離すことの出来ない個々人の内省を促した。	夏学期開講 30 時間
Introduction to Counseling Psychology （柘植）	1 コマ ／週	主に 学部学生	カウンセリング心理学を学ぶ上で欠かせない倫理、資格を押さえた上で、理論、カウンセリングスキル、心理テスト、精神病理学などの基本を紹介した。	冬学期開講 30 時間
コミュニティ・ビジネス起業講座 （林・横田）	1 コマ ／週	学部学生	社会・地域の問題解決をビジネスとして行う起業家育成のための実践的授業（特色 GP 関連授業）。	通年開講 60 時間

2. 留学生相談部門

③ 学部教育科目

科目名 (担当者)	コマ数	対 象	授業内容	時期・時間数
商学部 比較文化経験論Ⅰ (横田)	1コマ ／週	主に 学部学生	「自分に気づく」をテーマに、心理テスト、ゲーム、エンカウンター・グループを行った。	夏学期開講 30 時間
商学部 Japanese Business Culture (英語による講義) (太田)	1コマ ／週	主に学部 留学生	日本の伝統的なビジネス文化や慣習をホフステードやホールの手法を使って分析する。日本的なビジネス・プラクティスの文化的背景を探る。また、留学生が将来日本企業とビジネスをする際に役立つスキルを学ぶ。	夏学期開講 30 時間
経済学部 基礎ゼミ ～カウンセリング入門～ (井村)	1コマ ／週	主に 学部学生	カウンセリングの基本的な理論を学びながら、心理的困難やストレスに自分で対処できるよう、様々な訓練法を身につける。	夏学期開講 30 時間
社会学部 社会・人文の日本語Ⅰ・Ⅱ (河野)	1コマ ／週	対象は主に学部 2 年、研究生、日研究生、交流学生	留学生センターが独自に作成した学術論文集を精読する。それによって論文特有の表現を理解し、内容を的確に理解する。また、各分野における主要な概念や、論じられている事柄の背景について基礎的な知識を学ぶ。	Ⅰが夏学期、 Ⅱが冬学期開講 各 30 時間

④ 大学院科目

科目名 (担当者)	コマ数	対 象	授業内容	時期・時間数
総合社会科学日本事情 (社会学研究科) (河野)	1コマ ／週	主に 修士 1 年の留学生	特定の「日本人論」を取り上げ紹介するのではなく、さまざまな「日本人論」「日本文化論」をとりあげる。そしてそれらを自分の身のまわりの日常レベルから再検証し、批判的に考察する。	夏学期開講 30 時間
異文化間教育理解研究Ⅰ・Ⅱ (言語社会研究科) (横田)	1コマ ／週	修士の 学生	留学生アドバイジングについて理論と実際を学ぶ。	Ⅰが夏学期、 Ⅱが冬学期開講 各 30 時間

(文責：横田雅弘／集計担当：横田・河野・井村・柘植・阿部)